

たじみん昼話 42

180万円お金持ちにしてくれる、数学と物理のはなし

「今、学校で受けている教科は将来役に立つのですか」と毎年質問される。そしてききょうは、「……だからね(質問したら教えます)」と毎年答えている。このやりとりを何十年繰り返したのだろうか。

そろそろ大胆な質問をしてほしいと思う。例えば、どの教科が収入に影響しますか、とか、儲かりますかなどだ。そんな下世話な話は上品な人たちは考えないのだろうか。

少し古い話だが、そんなことを考えた人たちがいた。2011年10月、同志社大や京都大などの研究グループだ。

このグループは、文系、理系を合わせた大卒就業者約1万人(平均年齢43歳)を対象に、得意科目と平均所得(年収)の関係を調査した。

その結果、数学が得意な人の所得が620万円と最も高く、2番目が理科で608万円だったそうだ。ちなみに、数学と国語では、約183万円の差があったそうだ。

さらにグループは、理系の就業者約3200人で理科4科目について調査した。その結果、物理が約681万円で最も高く、生物は約549万円だったそうだ。この傾向は全世代に共通していたという。

調査に当たった、同志社大経済学部の八木匡教授らは、「論理的な思考能力が仕事の役に立っていることと、理数が得意な人が減少傾向にあり労働市場での評価が相対的に高まっている可能性があるからだろう」と分析している。

この傾向は2020年も同様なのだろうか。今は、ネットを活用した職種が増えており、ユーチューブで稼いでいる人達を分析すると、論理的思考力より発想力やプレゼン力が幅を利かせているように思われる。収入を高くする得意教科は何だろう。

ちなみに、お金持ちではないききょうの得意教科は、物理と数学だ

(参考資料[時事通信](#) 2011. 10. 20 付)